

## 校地選定の結果報告

高校再編推進室

校地検討会議から提出され懇話会で了承された「校地選定に係る意見交換のまとめ」及び懇話会構成員からのご意見等を踏まえ、県教育委員会で検討した。結果は下記のとおり。

## 1 校地・校舎に係る環境

○検討項目（観点） ◇校地検討会議での主な意見	検 討 結 果
<p>○敷地（校地）の広さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3科それぞれの学びを保障できる広さが確保できるか</li> <li>・3科連携の学びが実現可能となる施設（実習地、実習施設）の整備ができるか</li> </ul> <p>◇ゆとりある教育環境を考えると、敷地面積は広い方が適切だと考えられる。</p> <p>◇農業実習が可能なところを優先したい。</p> <p>◇総合技術高校として、実習施設・実習地が十分確保できる校地が望ましい。</p> <p>◇農業実習地は、土壌づくりの面からも継続使用が望ましい。</p>	<p>○授業で日常的に使用する敷地（校舎、グラウンド、実習地、実習施設）の面積を比較すると、上伊那農業高校は 178,339 m<sup>2</sup>、駒ケ根工業高校が 89,727 m<sup>2</sup>であり、88,600 m<sup>2</sup>ほど上伊那農業高校の方が広い。より広い校地を有する上伊那農業高校の校地を活用することが望ましいと考える。</p>
<p>○部活動の活動場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活動場所が十分確保できるか</li> </ul> <p>◇部活動の活動場所としての広いグラウンド、体育館を用意できるところが適切と考える。</p> <p>◇現在の統合対象校にある農業科、工業科、商業科それぞれの特色ある部活動は継続したい。</p>	<p>○両校ともに体育館及び野外施設があることから十分な活動場所が確保されており、両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○駐車場施設の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・企業からの来校者、行事等の際の保護者の駐車場は十分に確保できるか</li> </ul> <p>◇上伊那農業高校及び駒ケ根工業高校（以下、「両校」という。）とも十分確保できると考えられる。面積等については校舎設計段階で見直すことも大切だと考える。</p>	<p>○現在の校内駐車可能台数は、上伊那農業高校が約 280 台、駒ケ根工業高校が約 220 台である。校内における駐車場の確保については、広い校地に優位性があると考えられるが、校舎の改築規模や配置等が未確定の現段階では判断できない。</p>
<p>○周辺の道路環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型バスや訪問者が訪れやすい道路環境があるか</li> </ul> <p>◇両校とも、高速道路の IC、スマート IC からのアクセスは、好条件であり、どちらも十分な環境と考えられる。</p>	<p>○高速道路 IC からの距離は、上伊那農業高校は約 1.3km、駒ケ根工業高校は約 1.6km である。両校とも、大型バスや訪問者が訪れやすい道路環境であることから、両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○近隣住民への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での活動による騒音等の影響はどうか</li> </ul> <p>◇長年にわたり地域に密着し、関係性があるため、特に心配はないのではないかと考えられる。</p>	<p>○新校での近隣住民への影響は、校舎の改築規模や配置等が未確定のため、現段階で判断することは困難である。</p> <p>○学校活動に対して近隣住民からの苦情等はないことから、両校に大きな差はないと考える。</p>

## 2 通学環境

○検討項目（観点） ◇校地検討会議での主な意見	検 討 結 果
<p>○駅からの距離</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最寄り駅からのアクセスが容易か</li> </ul> <p>◇駅から近いことは重要であり、アンケート結果（令和 4 年 10 月実施）からも要望が強い事項である。</p> <p>◇両校とも多くの生徒が駅から徒歩で登校しており、駅からのアクセスは両校とも容易と考えられる。</p>	<p>○JR 飯田線最寄り駅からの距離は、上伊那農業高校は約 1.9km（伊那北駅徒歩 28 分）、駒ケ根工業高校は約 0.9km（伊那福岡駅徒歩 13 分）であり、駒ケ根工業高校の方が近い。</p>

○検討項目（観点） ◇校地検討会議での主な意見	検 討 結 果
<p>○通学時の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩・自転車による通学の安全性が確保されているか</li> </ul> <p>◇駅から学校までほぼ歩道が整備されており、両校とも適切と考える。</p> <p>◇通学環境については、地域の協力のもと、新校開校にあたり更に安全確保に向け整備されたい。</p>	<p>○いずれも、最寄り駅からの通学路において、交通量の多い道路には歩道が設置されており、両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○上伊那全域からの通学のしやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地からの通学時間はどうか</li> </ul> <p>◇南北に長い上伊那地域を考慮し、できるだけ中心にあり、上伊那の各地域から通学時間に大きな差が生じないところがよいと考える。</p> <p>◇公共交通は、今後も整備が必要と考える。</p>	<p>○上伊那地域全体からの生徒の通学時間を考慮すると、上伊那地域の中央部に所在する上伊那農業高校の校地を活用することが望ましいと考える。</p>

### 3 学校を取りまく教育環境

○検討項目（観点） ◇校地検討会議での主な意見	検 討 結 果
<p>○他の学校等（幼保小中高大特支）との交流の利便性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流が想定される他の学校等との距離や位置関係はどうか</li> </ul> <p>◇交流のしやすさは単に距離や位置など物理的なものだけでなく、協力体制など地域のサポートが重要であると考えます。</p>	<p>○他の学校との交流活動における移動距離を考えると、信州大学、南信工科短期大学及び伊那養護学校には上伊那農業高校の方が近く、長野県看護大学には駒ヶ根工業高校の方が近い。実際にどの学校と交流するかで一長一短があるため、両校に大きな差はないと考える。</p> <p>○伊那養護学校及び同校高等部中の原分教室との交流は新校でも重要と考えており、これまでの交流を鑑み、上伊那農業高校の校地を活用することが望ましいと考える。</p>
<p>○地域（企業・自治体・教育機関等）との連携の利便性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流や連携が想定される地域の企業・自治体・教育機関との距離や位置関係はどうか</li> </ul> <p>◇交流のしやすさは単に距離や位置など物理的なものだけでなく、協力体制など地域のサポートが重要であると考えます。</p>	<p>○上伊那地域内でさまざまな連携先が想定されるが、実際にどの企業・自治体・教育機関と交流するかで移動距離は異なるため、両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○周辺の学習環境（自学、自習スペース）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣に放課後の学習環境等があるか</li> </ul> <p>◇図書館や居場所（自習等のスペース）となる公共スペースが近隣にあるところがよいと考える。</p> <p>◇伊那市内、駒ヶ根市内に近ければ、学習環境は整っていると考えられる。</p>	<p>○放課後等の学習環境として図書館が考えられる。上伊那農業高校から約3.2kmの距離に伊那市立図書館、駒ヶ根工業高校から約4.5kmの距離に駒ヶ根市立図書館が所在することから、両校に大きな差はないと考える。</p> <p>○また、両校ともに、学校や最寄り駅周辺には学習スペースが存在しないことから、両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○近隣施設の利便性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発表等で活用が想定される公共施設等との距離や位置関係はどうか</li> </ul> <p>◇学校からは若干距離があっても直接集合が可能な施設があればよいと考えられる。</p>	<p>○近隣の公共施設での活動における移動距離を比較する上で、日常的な利用が想定される文化会館等を比較した場合、両校に大きな差はないと考える。</p>

## 4 その他

○検討項目（観点） ◇校地検討会議での主な意見	検 討 結 果
<p>○地区内の高校配置のバランス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再編後の上伊那県立高校6校の配置はどうか</li> </ul> <p>◇生徒たちの学びのしやすさ・通学のしやすさを実現できるところがよいと考える。</p> <p>◇再編・整備計画が「都市部存立校」と「中山間地存立校」を基本に再編を進めている以上、地区内のバランスの視点は必要と考えられる。</p>	<p>○上伊那地域全体からの生徒の通学時間や、上伊那地域唯一の専門高校として、地域で果たすべき役割を考慮すると、上伊那地域の中央部に所在する上伊那農業高校の校地を活用することが望ましいと考える。</p>
<p>○他地区（旧他通学区）との高校配置のバランス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪地区、下伊那地区、木曾地区、塩筑地区の専門学科設置校との距離はどうか</li> </ul> <p>◇諏訪地域、下伊那地域の農業、工業、商業の学びを備えた学校からの距離、バランスを考慮したところがよいと考える。</p>	<p>○諏訪地域及び下伊那地域に所在する専門高校との距離を考慮すると、上伊那地域の中央部に所在する上伊那農業高校の校地を活用することが望ましいと考える。</p>
<p>○まちづくりとの関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体が計画するまちづくりのゾーニングや土地利用規制はどうか</li> </ul> <p>◇両校とも、現在、学校が立地している場所であるため、特に問題はないと考えられる。</p>	<p>○上伊那農業高校は南箕輪村に所在し、駒ヶ根工業高校は駒ヶ根市に所在するが、いずれも都市計画上の問題や新校設置に当たっての土地利用規制はない。また、防災ハザードマップにおいては、両校とも浸水想定区域に該当しておらず、問題はないと考える。</p>

## 5 総 括

校地検討会議及び懇話会では、校地選定に係る基本的な考え方として、現在の上伊那農業高校、駒ヶ根工業高校のいずれかの校地の活用を前提として検討することや、総合技術高校の特性から校地は一つを基本とすること等を確認した上で意見交換を重ねていただいた。その結果、どちらの校地も候補として甲乙付けがたいため、校地選定は県教育委員会の判断に委ねるとの結論に至った。このため、県教育委員会では、懇話会等での意見を踏まえ、各検討項目について両校の校地の比較、検討を行い、下記のように総括した。

上伊那農業高校に優位性があると考えられる項目は「1校地・校舎に係る環境」の「敷地(校地)の広さ」、「2通学環境」の「上伊那全域からの通学のしやすさ」、「3学校を取りまく教育環境」の「他の学校等との交流の利便性」、「4その他」の「他地区(旧他通学区)との高校配置のバランス」であった。一方、駒ヶ根工業高校に優位性があると考えられる項目は「2通学環境」の「駅からの距離」であった。

これらのことをもとに、検討項目(観点)に照らし合わせ、「新たな価値観の創出と地域・社会への貢献」を目指す新校の学校像の実現を第一に検討した結果、

- ① 専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農業・工業・商業の連携による総合技術高校の新たな学びを実現するために必要な実習地、実習施設が確保できること
- ② 上伊那全域からの通学の利便性や外部との連携のしやすさ、諏訪地域及び下伊那地域に所在する専門高校との距離を考慮すると、上伊那地域の中央部に所在することが望ましいことから、次のように判断した。

○上伊那総合技術新校（仮称）は上伊那農業高校の校地校舎を活用する。